

【近畿農政局長賞：地域の平均単収からの増収の部】 日方 洋(京都府京丹後市)

ひかた ひろし

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
夢あおば	約2.6ha	726kg/10a	213kg/10a(513kg/10a) [※] ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族2人(本人、母親)で経営する専業農家。経営面積 約12ha
- 平成17年にUターン就農、平成21年に父親から経営を引き継ぐ

【作付品目】

- ・主食用米:コシヒカリ、ササニシキ 4.1ha
- ・加工用米:京の輝き 3.0ha
- ・飼料用米:夢あおば 2.6ha
- ・WCS用稲:コシヒカリ 0.7ha
- ・野菜:ブロッコリー、堀川ごぼう 0.5ha
- ・野菜採種:キャベツ、大根 0.55ha

【取組のきっかけ】

- 京丹後市域の飼料用米生産の推進を目的とした「京丹後市飼料用米生産組合」(平成22年設立)に所属し、平成22年産から飼料用米の生産を開始。
- 稲わらの出荷を行っており、26年産から中晩生の多収品種の「モミロマン」で作付けを行ったが、当地域は秋以降、雨天が多いため、稲わらの回収に支障があった。そこで、27年産から、9月中に稲わらの回収が可能な早生品種で多収品種の「夢あおば」に品種を変更。

【取組概要】

- 飼料用米生産ほ場は、経営ほ場の中で、日当たり、均平等最も生産環境条件の良いほ場を選定。
- 施肥については、省力化のため、京丹後市エコエネルギーセンターに流し込み施肥(液肥)を委託。元肥、追肥の施肥管理において、適正な窒素量を確保。
- 防除については田植(5月)と同時に粒剤を散布し、作業を効率化。
- 温湯消毒を実施し、農薬の使用量を低減。
- 収穫は脱粒しないように早めに収穫し収穫ロスを低減。
- 農地中間管理機構を通じて農地集積を行い、団地化に取組み作業を効率化。
- 売り先は地域の畜産農家等で、フレコン出荷。



京都府



京丹後市